

秋田県議会議長 北林丈正 様

森吉山の価値と未来を考える会

代表 宮野 貞壽

要 望 書

2022 年 6 月 14 日 環境省発表

国立・国定公園総点検事業フォローアップに係る
森吉山国定公園新規指定の選択について

2025年(令和7年)1月31日

＜事務局＞

〒018.4302 北秋田市浦田字浦田 65 番地（NPO 森吉山ネイチャー協会内）

電話：0186-73-2510

Web サイト <https://www.kumagera.ne.jp/moriyoshizan/>

E メール moriyoshizan@kumagera.ne.jp

＜要望主旨＞

秋田県発展のため、日々のご尽力に対し敬意を表するものです。

環境省は表題の総点検事業により、森吉山県立自然公園を十和田八幡平国立公園に編入か、又は国定公園新規指定の選択を示しました。

当会は、その選択肢を「私たちは なぜ国定公園の新規指定を選択するのか」にまとめました。国立公園編入および国定公園新規指定の選択は「森吉山の名称を守るのか、自ら消し去るのか」北秋田市民にとって重大な決断になるからです。

何故ならば、自然公園の総称と固有名称は、歴史的・文化的・習俗・民族学的遺産であるのみならず、山岳信仰が山に神格ならぬ人格を与えたように、公園名称の森吉山は地域住民にとってアイデンティティーそのものであるからです。

森吉山は江戸時代から大正期に活躍した北前船の視標山として秋田山と呼ばれてきました。その山頂部は日本三大樹氷群に花園を広げ。奥阿仁はマタギの里の奥座敷に鎮座する安の滝や立又溪谷の名瀑群。奥森吉は太平湖・小又峡とその集水域を形成するクマゲラの森や天国の散歩道と称される桃洞・赤水溪谷に代表されます。

「ぐるっと森吉山」の、あまたのビューポイントは、決して十和田八幡平国立公園の価値ではなく、森吉山ブランドを磨き上げるフィールドでなければなりません。

現職の知事、県議会議員、北秋田市長、市議会議員は「森吉山の名称を消し去った当事者として、決して歴史に記憶されてはなりません」。

国立公園編入は多くの課題が横たわっています。十和田八甲田地域と八幡平地域は鹿角市を挟んで南北約 50 km に二分され、それぞれの山体ピーク間は 80～100 km に及びます。北秋田市からは日々の眺望も利用の一体性もなく、生活圏・文化圏・経済圏を異にする距離感は大きな違和感を覚え、その溝は埋めることはできません。

環境省の国立・国定公園総点検事業は 2030 年以降も確実に継続されます。秋田県議会においては、先ずは森吉山国定公園の新規指定を早期に成し遂げ、単独の森吉山国立公園（既存面積約 1 万 5 千 ha から森吉山全集水域約 5 万 ha に拡大）を目指そう、特段のご尽力をお願い申し上げる次第です。

＜添付資料＞

環境省が進める八幡平周辺「大規模拡張地域」のストーリーについて

国土の狭い日本の自然公園は、国有林を中心に都道府県有地・社有林・私有地・入会地等から成る「地域指定制度」を執っているため、自然公園の指定・拡張・公園計画の策定等は地権者の同意が前提となっています。

私たちは、これまでのフィールドワークもとに環境大臣あてに要望書提出(2023. 11. 18)し、環境省東北地方環境事務所国立公園課（特任担当 課長補佐 丸山 永）と、今後の拡張地域、地種区分の格上げ、公園区分の選択について協議を重ねてきました。その内容について、双方で確認できた要点についてお知らせします。

（１）八幡平周辺の大規模拡張地域の基本的なストーリーは

- ・森吉山は国立公園編入も国定公園の新規指定も、その資質を持っていることを前提に選定された地域である。実際の環境調査によってもすでに資質は裏付けされている。
- ・第一のストーリーは、八幡平地区から和賀山塊を挟み真昼山地に至る奥羽山脈の脊稜線を、隣接・近接する既存の四つの県立自然公園（森吉山、真木真昼、田沢湖抱返り、太平山）も含めて、十和田八幡平国立公園の名称として何処まで編入できるかというストーリーを見定めている。
- ・第二のストーリーは、国立公園編入（見直し）に関係自治体の合意が得られない周辺の県立自然公園は、個別の拡張地域や地種区分の格上げをもって国定公園新規指定の合意を得るストーリーである。

（２）国立公園の十和田地区と八幡平地区の分割について

- ・乳頭温泉郷組合を中心に、十和田地区と八幡平地区の分割論議が高まっていることは承知しているが、**今般のフォローアップ事業に分割計画はない。**
- ・分割方針をテーブルに乗せるためには、今般の総点検事業の結果を踏まえた上で、利用面においてもそれぞれの独立性・独自性を有することを前提とした、地域の意向と熱意が求められる。

（３）八幡平周辺の県立自然公園を編入した場合の国立公園の名称変更は

- ・**十和田八幡平国立公園のブランド名は替えない。**
- ・したがって、隣接・近接している県立自然公園を編入しても、他の山岳名称を公園名に加えることはない。

（４）国立公園に県立自然公園を編入する場合の条件は

- ・今回は十和田八幡平国立公園の見直しに主眼を置いているので、**四つの県立自然公園を国立公園に編入する場合は、構成 18 市町村すべての合意が必要になる。**
 - ・県立自然公園の公園区分の変更は、県条例に基づき県と地元市町村の合意をもって環境審議会が決定し国に「申し出」を行い国の環境審議会の答申を得て環境大臣が決定する。
- ※十和田八幡平国立公園に編入の構成市町村（青森市、黒石市、平川市、十和田市、小坂町、鹿角市、八幡平市、滝沢市、雫石町、西和賀町、横手市、美郷町、大仙市、仙北市、北秋田市、上小阿仁村、五城目町、秋田市）**18 自治体すべての合意**
- ※太平山国定公園の新規指定は（秋田市、五城目町、上小阿仁村）**3 自治体すべての合意**
- ※森吉山国定公園の新規指定は（北秋田市）**1 市の合意**

(5) 国立編入と森吉山国定公園の新規指定のスピード感は

- ・八幡平周辺の大規模拡張は3県18市町村に及ぶため、国立編入を目指すとするれば、2030年度までの環境調査完了は厳しい。
- ・森吉山県立自然公園（15,214ha）は、国定公園の面積要件（10,000ha以上）を満たし、北秋田市単独の自然公園であるため、国定公園新規指定であればスピード感は早い。
- ・環境省としては、調査が完了し合意できたところから随時指定していく。

(6) 内陸線と阿仁川流域(里地里山)の自然公園拡張手順は

- ・「森吉山の価値と未来を考える会」が要望した里地里山の拡張地域は、自治会等への説明と合意は北秋田市で行ってもらいたい。
- ・地種区分が普通地域であれば、地権者個々の同意は必要としない。
- ・北秋田市から要請があれば自治会説明会に出席し助言する。

(7) 森吉山麓の古河林業社有林（ブナ林）の公園拡張手順は

- ・社有林の広大なブナ林は、森吉山本体の核心部を形成していることを確認した。
- ・自然公園の拡張地域を目指し地権者と調整を図りたい。

(8) 国立・国定公園の指定・拡張・再編・公園区分の選択は

- ・県立公園の国立編入や国定公園の新規指定においては、地元市町村と都道府県の意向と尊重したい。
- ・森吉山や太平山は、奥羽山脈の脊梁線から離れているため、十和田八幡平地区から地理的連続性や利用の一体性に欠けること。独立性や独自性を有していることは承知している。国定公園の新規指定も視野に入れた環境調査を進めている。

(9) 調査結果の方向性の発表は

- ・新年度当初には一定の方向性を示したい。

(10) 森吉山合同現地視察

- ・昨年は、ゴンドラが故障し断念したが新年度に日程調整したい。

※環境省、森吉山の価値と未来を考える会、北秋田市等他で調整。